



ヘリオス テクノ ホールディング株式会社
代表取締役社長 齊藤 定一
Sadaichi Saito

再生からさらなる飛躍を目指す 前進と成長を続ける企業の姿とは

ランプ事業、製造装置事業、人材サービス事業を軸に躍進を続けるヘリオス テクノ ホールディング株式会社。
V字回復で企業再生を果たしさらなる成長を目指し続ける同社グループの事業と企業経営を支える方針について
代表取締役社長の齊藤 定一氏が語った。

米国企業との共同開発を進め V字回復から事業多角化を推進

新たなビジネスを創成し、企業が数多く誕生する影には、時代や社会の変化に追いつかず経営危機に陥る企業があるのも現実だ。大きな努力や支援によってなんとか再生を果たす企業もあるだろう。しかし、経営を回復することにとどまらず、その先を目指すのは極めて難しい。フェニックス電機株式会社は、会社更生法の適用を受けながらV字回復で再生を果たし、グループ企業を形成してホールディングス体制を構築。ヘリオス テクノ ホールディング株式会社としてグループ全体の飛躍を図るまでに成長を遂げている。

「当社の前身である(旧)フェニックス電機株式会社は照明メーカーとしてスタートし、1980年代にはハロゲンランプ

で業界トップクラスのシェアを誇りましたが、90年代になって業績が悪化し、95年に経営破綻しました」(齊藤氏)

会社更生法の適用を受けた後、再建支援者として尽力したのが、現在同グループを率いる齊藤氏だ。

「国内の取引先との信頼関係が失われたなかで、米国企業からプロジェクターランプの共同開発を持ち掛けられました。それまでに培ってきた技術を生かせる分野と判断して、この提案を受諾。同時に企業内で何度も破綻の原因を話し合い、課題を明らかにして改善に努めました」(齊藤氏)

その後、同社が開発に携わったプロジェクター用ランプの好調な売上により、企業経営はV字型の回復を果たした。さらに背面投影型プロジェクターが、米国で大画面テレビとしてヒットし、業績は一

層高まった。 全ステークホルダーのために 常に成長を続ける会社を目指す

再生を果たしたことに満足していたら、現在の同社はなかったかもしれない。目指すべきゴールはその先にあることを齊藤氏は見据えていた。

「時代や社会の変化に対応し、絶えず前進することが必要なのです。すべてのステークホルダーのために、常に成長を続ける会社を目指しました」(齊藤氏)

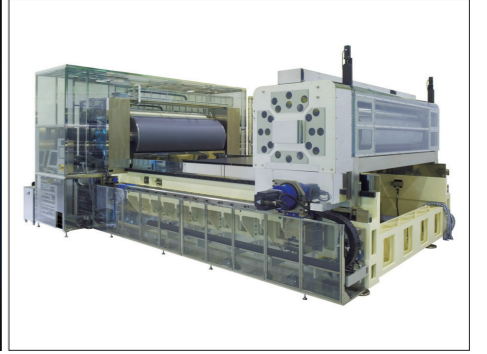
その後、プロジェクターランプの価格は下落。プロジェクター市場の成長性に陰りが見られ、円高の影響が膨らんだことを契機に事業の多角化に着手。2009年には人材サービス事業を展開する株式会社日本技術センターと経営統合した。



露光装置用光源用紫外線ランプ製造工程



LED照明ラインアップ



フレキソ印刷機

また、液晶製造装置を手がけていたナカン株式会社の子会社再生に際し、新たに設立したナカンテクノ株式会社とその事業を譲受した。

経営破綻からわずか7年後の2002年にはJASDAQに再上場。その後も2005年東証2部、2006年には東証1部に上場を果たすなど、企業として一旦は失われた信頼も再び築き上げられた。

グループ全体のシナジー効果 半導体製造装置分野に進出へ

同社グループが展開しているのはランプ、製造装置、人材サービスの3事業だ。

「現在、グループ全体の売上の60%を占めているのがナカンテクノ株式会社です。主力商品である液晶パネル用の配向膜印刷装置は、世界的メーカーとして、日本、韓国、台湾、中国などでフラットパネ

ル・ディスプレイ業界を支えています」(齊藤氏)

フェニックス電機株式会社は、縮小傾向にありながらも代替需要があるハロゲンランプの製造や、現在旺盛な需要のあるLEDランプ・露光装置用光源ユニット・露光装置用紫外線ランプの製造及び開発を担っている。

また、株式会社日本技術センターは、設計・開発・製造分野の技術者を大手メーカー、研究所などに派遣したり、エンジニアリング部門の大規模な請負業務や技術支援を行っている。

「技術を力に事業の多角化を推し進めて、グループとしてさまざまな変化に柔軟に対応できる体制を築いています。今後はグループ企業間の連携をより積極的に図ることで、シナジー効果も生み出していきたいと考えています。フェニックス電機の技術力、日本技術センターのエンジ

ニアリング力に、ナカンテクノの技術やアジア圏における販売力が加わることで大きな相乗効果が発揮できると期待しています」(齊藤氏)

国内外を視野に、M&Aや戦略的提携の締結も図っていく方針だ。

「中国のメーカーやファンドと事業提携して、半導体製造装置分野に進出することを目指しています。優れた技術や製造力を生かして、日本国内に製造拠点を設け、中国などの海外市場に向けて供給するビジネスです」(齊藤氏)

終着点としてゴールへの到達を目指すのではなく、これを通過点に置き換えてさらに前進を続けるヘリオス テクノ ホールディング株式会社。そこにはあらゆる変化をチャンスに変えていく、永続的な企業の姿が見通せる。

ヘリオス テクノ ホールディング株式会社

【本社】〒679-2122 兵庫県姫路市豊富町御蔭703 [電話] 079-263-9500 [HP] <http://www.heliostec-hd.co.jp>
●設立: 1976年 ●代表者: 代表取締役社長 齊藤 定一
●ヘリオステクノグループ 事業内容: ランプ事業(フェニックス電機株式会社)、製造装置事業(ナカンテクノ株式会社、フェニックス電機株式会社、株式会社日本技術センター)、人材サービス事業(株式会社日本技術センター) など

全国放送 11/19 放送	全国放送 11/26 放送	兵庫・大阪 11/27 放送
BS12 トゥエルビ 毎週日曜/18:00~18:29	NIKKEI CNBC 毎週日曜/12:00~12:29	SUN-TV 毎週月曜/22:00~22:55

ビジネス情報番組
賢者の選択
Leaders

一人の思いが世界を変える。
<http://kenja.jp/>
賢者の選択